

令和元年度 第2回 岸和田市観光振興計画推進委員会

- 1 日時 令和2年1月29日(水) 10時00分～11時40分
- 2 場所 岸和田だんじり会館1階会議室
- 3 出席者 委員 【学識経験者】
石田 信博(委員長)、百武 仁志(副委員長)、小川 雅司
【公共的団体の代表者】
土井 康司、中井 秀樹、井上 實
【関係団体の代表者】
安田 博宣、内藤 雅之
【市民公募】
石川 真裕美
事務局 大西魅力創造部長、西河観光課長、中浜参事、高橋主査
渡邊(JTB)、柱本(JTB)
傍聴者 1名

- 4 議事 (1) 第2次岸和田市観光振興計画 第2期行動計画の策定について
(2) 事業推進組織について

5 配布資料

- (1) 配席図
- (2) 岸和田市観光振興計画推進委員会委員名簿
- (3) 岸和田市観光振興計画推進委員会規則
- (4) 第2期行動計画の試案
- (5) 行動計画における事業推進組織の試案

6 内容

- (1) 開会
- (2) 部長挨拶

○大西魅力創造部長

ただいま、ご紹介いただきました、岸和田市魅力創造部長の大西でございます。

委員の皆様方におかれましては、ご多用にもかかわらず、本委員会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、平素から本市政の推進、観光振興に多大なるご支援・ご協力を賜っております。この場をお借りいたしまして、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年10月に開催いたしました委員会におきまして、第1期の行動計画は最終年度を迎えるということで、計画の進捗状況の分析につきまして委員の皆様からご意見を頂戴したところでございます。本日の委員会におきましては、令和2年度及び令和3年度に実施いたします第2期

の行動計画の試案を事務局の方から提示させていただきたく存じます。委員の皆さまにご審議をいただきたいと思ってございます。委員の皆さま方には活発に意見交換をしていただきまして、本委員会が実りのあるものになるようお願いし、簡単ではございますけれども開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 出席状況報告 会議成立の宣言。

(4) 議事① 第2次岸和田市観光振興計画 第2期行動計画の策定について

○事務局より資料（第2期行動計画の試案）をもとに第2期行動計画の試案を説明。

○委員長

第1期行動計画を踏まえたうえで第2期行動計画について事務局からの提案がございました。沢山ご質問があるかと思えますけれども、どなたからでもご発言いただきたいと思えます。

○委員

第2期行動計画が令和2年度と3年度ということで2年度の予算と市の事業の内容がはっきりしない中で、ある程度、2期の行動計画の内容というのは予算的な裏付けがあるのかどうか、この段階ですから議会も開かれていませんので、ある程度予想された中で考えたのか、あるいはそこまで踏み込まずに考えておるのか確認しておきたい。

○事務局

予算につきましても想定はしながら行動計画に反映させていただいているわけですが、予算の内容につきましても厳しい状況に変わりないとなってございます。行政だけでやっていくには行動計画の中身も多岐にわたることがございますので後ほど、推進体制の組織について提案させていただく分がありますので合わせて実施主体についてご説明させていただきたいと考えております。

○委員

1枚目の3. テーマの選択集中とスピード感のある企画運営を行うとあり、その通りだと思うのですが、2枚目以降に総花的に色々なものが書かれているが、それを選択するのはどなたが選択するのですか。

○事務局

確かにご指摘の通り、選択と集中という一方で各事業について総花的な行動計画になっているということは認識してございます。こちらにつきましても実際にどのテーマを中心にやっていくかというのを事業推進組織の試案という中で後ほどご説明があると思うのですが、部会を作ったりとかそういったところでテーマを選びながら重点をかけていくところは重点をかけていくというような行動計画というように認識しています。

○委員

ということは第2期行動計画は、言ったらご飯を食べるメニューみたいに色んなものが書いてあって、実際に部会等がお客さんの立場でこれこれこれと選んでやるという。それで本当にいいのですかね。

計画というのはそういう沢山メニューが出されたところから主体が仮に部会だとすれば部会がこ

れとこれとこれとやりたいですというふうを選んで、選んだものが偏った時にそれもよしということですね。この委員会なり岸和田市として、これが特に重要だからこれを選択、これに焦点を当てて第2期でやっていくんだと、そういうのが特になく、どうぞ好きなものをしてくださいと、そういうスタンスで書かれているという理解でよろしいのですかね。

○事務局

何かメニューとしてこれとこれとこれだけやりましょうかというわけではなくて、計画なので、基本的にはベースには全てありまして、その中でいかにそれを優先して行っていくかというのがまず部会の中で話し合う中でですけど、部会が全て決定するわけではなくて、議題の二つ目の話にもなってくるのですが、最終的には部会からあがってきたものをオーソライズするのがこの委員会であるのかなとは思いますが、部会が二つ三つだけをやって行動計画 OK という認識ではない。

○委員

コンサルさんがいらっしゃるので聞きたいが、それならば委員会が定めるというか認める行動計画自身に岸和田市としたら2期ではここが特に重点ですと先に色を付けておかないと当然下に落とす時にみんな同じ色がついていたら、選んだと、あがって来たら、それは優先順位低いから違う、こっちの方が重要だということをずっとやり取りを続けるのですかね。

○事務局

そういう意味では、ここでしっかり議論していただくというのが大事なことだという認識です。ここが何もなしで、部会で決めたことだけがあがるのではなくて、しっかりここでご議論いただいて、それをもとに部会でやっていくと。

○委員

いやいや、役所の立場としては全部出さないでしょうがないですよ。

○委員

それはわかりますよ。

○委員

その中でここでね、重点方針を決めてもらってそれをさらに落としていったら良いだけのことですからね、それをすべて役所で色を付けていけというのは無理、立場上。だからここで色つけてあげないでしょうがない。ここでね。

○委員

この委員会でもつけれないわけですね。

○委員

いやいやつけていく。

○委員

いいんですか。ではここで例えば二重丸とか三重丸とか付けてもいいという。

○委員

そうそう。そういう意味です。

○委員

それが一点と、これを見てると方針が P なんでしょうね。それで、たぶん一期の行動計画が実際

にしたものもあるし、してないものもあるのですがDなんでしょうね。今書かれている赤のところは何ですか。AですかCですか。普通PDCAで書くものですよね。これどれなのかなというのがよくわからないんですよ。

○委員

そんなことは考えて書いてない。

○委員

例えば先ほど検証は終わったということなんですけど、検証に関しては全然文字になってないのですか。

○委員

なっていない。

○委員

それで次の計画をここで、議論して濃淡をつけるっていうことができるのかなっていう、私ちょっと難しいなって思うんですよ。

○事務局

PDCA検証は前回の第一回で行ったうえです。

○委員

それを文字にしてないですよ。継続って言ってもどう継続するのかよくわかりませんよね。そのうえで今おっしゃったように濃淡をつけて下に落としていくって言うんですけど、我々その濃淡をつけるのはこれでは中々判断ができないなという。

○委員

多分この図の左側に基本概念くっつけたものがありますよね。これを彼らは一応検証して導いてきたと思っている。だからPDCAを正確にいうのはできない。この間まで書いたものがありますよ。一応終わっていると思っているんですよ。それで結果としてこれを作ったと思っているんです。

○事務局

確かに前回検証した結果になりますので本日は資料としては付けさせていただいてはございませんが、前回の議論の中で市としてやはりインバウンドの受け入れというものに今重点を置いていくと、そういう議論の中で元々この計画を作った時にインバウンドというものについてはそれほど照明を当ててなかったというのもあって、一定、次の行動計画についてはインバウンド中心にいかにか人を呼び込むか、ということでお話になったと思いますので、そう意味ではインバウンドをどういう風に取り組むかという視点の中で今回の行動計画について一定事務局の方で提案させていただいたという形になっていったという風に認識しております。

○委員長

ありがとうございます。他にございますか。

○委員長

今出たご質問の中でですね、どんな風に優先順位つけるんだというものがありましたが、それは実は2番目の議案の組織ですね、それとも関係があるので変則的になりますけど2番の方に触れていくというやり方で行きたいと思いますがよろしいですか。

その前にせっかく赤字で作成頂いた第2期行動計画ですね、これについて基本的なご質問とかご

ございましたらまずそこをお願いいたします。

○委員

宿泊施設のところで大阪府の民泊条例ということが行動計画のところに既にあるんですけど、民泊条例が岸和田市の方でこんな形で取組んできたのかということですね。恐らく岸和田市も名前が載っていたかと思うんですけど、どういう取り組み状況にあるのか教えてほしいということと、ホテルとか旅館で実態というか、新しいホテルも増えてあるんですけど、その稼働率とか。特に牛滝温泉の経営状態が変わったということがありますし、民泊ということと旅館業務のホテルの実績がどんなようになっているのかお聞きしたい。

○事務局

まず民泊についてですが、平成 29 年 6 月に規制緩和ということで住宅宿泊事業法に基づく新法民泊という制度ができて、これまでは旅館業法であったり特区であるとか一定の制度がある中で民泊を行ってたんですが、外国人観光客が増えているということで新法民泊というのが 29 年の 6 月に施行されてございます。岸和田市につきましては 3 件という実績がございましては届出であったり申請の審査というのが大阪府の環境衛生課というところがやっておりますので、そういった民泊のお問い合わせがあったときは大阪府の方をご案内させていただく流れになっております。市としましては民泊につきましてはなかなか進んでいない状況ですが、今後こういった民泊の活用ということが増えると想定されますので、市としても取り組んでいきたいと考えてございます。

もう一点、牛滝の旧いやよかの郷につきましては、去年 4 月から経営者が変わりまして完全に民間委託ということで四季まつりという名称に変わってございます。

現在の状況につきましては、4 月から施設を引き継いでいただいているわけですが、今年の 5 月に大きなリニューアルされるということをお聞きしております。

今の期間にしましては以前と比べると宿泊客・日帰り客が減少しているというのが現実ということですが、今後お風呂の増築であるとか新しい施設整備を行うということですので今後の伸びに期待していきたいというような現状でございます。

○委員

現在 3 件が名乗りを上げていて、届出と申請をしているという把握をしているわけですが、これは府任せになっているということなんでしょうか。どこのどんなおうちが該当しているというようなことが情報として観光の観点から使うべきかなと私は思います。

全国的にも空家が非常に増えてきていて岸和田市でも問題になっていると思うんです。そんな中で市としては例えば空家対策としてそういうことと連携させるということも必要なかなと思っております。古民家を例えば市が積極的にどこまでいけるか難しい部分もありますがそういうところをつなげていく、市民の持ち物とつなげていくということも考えていただいたらどうかなと思うんです。

それと二点目のいよよかの郷の今の民間施設についてはそういう状況ですけど、私がお聞きしたかったのは新しく東岸和田にできたホテルあるいは現在の既存のホテルがどのような稼働率を持っているのかということをお聞きしたいということで、その二点再びお願いいたします。

○事務局

まず民泊の件につきましては現在3件ということで申し上げたのですが、具体的には山直中町であつたりとか宮本で2件、それで3件になっております。市との関係としましては当然ほつたらかしかではなくて、届出とか審査は大阪府がされるんですが、民泊される中で消防法の問題であつたりとかゴミの問題であつたりとか、そういったところは市の範疇になってきますのでそういったところで連携を取っていったというのが現状となっております。

もう一つ、空家対策につきましては岸和田市も空家がかなりあるということで担当の部署がございまして、観光課もそのメンバーに入っております、空家の活用ということで将来的には古民家の活用といったものに繋がっていくかも知れないんですが、そういったことでは連携をとっているという現状となっております。

もう一つ、ホテルの稼働率なんですが、こちらはまだデータは取っておらないのでデータとしては持っておりません。申し訳ございません。

○委員

まず第一に民泊の話ですけれども、時期は終わりました。すでにホテルの部屋数がオーバーになりつつあります。大阪府下で多分入ったお金の平均値ですけれども千円くらい落ちてはるはずなんです。南海さんもよくご存じかと思うんですけども、難波でも佐野でも大量にできてます。まだこれから続々と出てきますから、もう民泊の時期は終わりました。あれは一過性のものです。古民家で活用するというのは別の施策ですから、民泊という概念では捉えないほうがいいと思います。

次に東岸和田の稼働率ですけれども、和泉中央と比べると実はちょっと稼働率が悪い。立地の問題がありましてね。なぜかと言うとあれはいわゆるインバウンドの客ではなくビジネス用なんです。聞いているところによりますと桃山大学とかの関係で和泉中央の方が稼働率が高いということらしいんです。和泉にもう一つこしらえると話は聞いてますけど。

○委員

民泊終わりですか。

○委員

もう終わりや。

○委員

南海電鉄のプロモーションを担当しておりますので一つだけお伺いします。4ページ目の一番上なんですけれども、身近なターミナル拠点におけるプロモーションというところ、関西国際空港や南海電鉄難波駅などでターゲット属性に合わせた積極的なプロモーションを検討実施というところの過去の実績をお聞かせいただければと思います。

○事務局

身近なターミナル拠点でのプロモーションということで過去実績というご質問に対してお答えさせていただきます。南海難波駅につきましては最近なかなか市独自では行けてないですが、カーネーションをやっているときに南海の中央口を出たところでブースを構えさせていただいたり、乗降客さんに対してPRしていったというのが難波駅のほうになります。

関西空港につきましては広域連携の中で、今のKIX泉州ツーリズムビューローという国内外の観光客を取り込むという団体があるんですがその前進となる泉州観光プロモーション推進協議会であるとか、あと南泉州で観光部局が集まった協議会がありましたんでそういったところで、例え

ば閑空の夏祭りであるとかそういったところで PR していったのがまず一点になります。

○委員

2019 年では何か。

○委員

そこがないから話にならんのですよ。

○委員

完全に 100%ご協力というわけにはいきませんが優待的な割引ですとかそういうご協力はさせていただきたいと思しますので、内容を聞かせていただけたらなと思ったのですが。我々も協力する立場ですので是非よろしくお願いします。

○委員

今みたいなご質問があること自体が問題なんじゃないんですか。この 3 ヶ年で何があったかっていうのがあって検証があって次ですよ。それが南海さんからその質問が出て完全に答えられないと、しかも古い事例しか回答できないと、どこで検証ができて次計画につながっているのかがね。これ問題じゃないかなと思いますけどね。論議の立て方として。

○委員

一応手順を踏んでるんで検証したうえでっていうことになってますのでそれで進めていきたい。

○委員

前回、前々回検証したことになってますから、この会議で。

○委員

それでも事務局が答えられないというのがどうなんかなと思いますけどね。

○委員

Wi-Fi 環境設備整備されていってると思うんですけど、これの接続数とかどこからとかいうものはどのような状況になってきているのは、やっぱり設置してよかったものなのかっていうのも聞きたいなと思ひまして。

○事務局

この資料では実施したという表現になっておるんですけども、今日時点でまだ進行形になっていまして、設置を進めているところでございます。

○委員

何が情報とれるっていうのは何かありますか、接続数とか。それは絶対あるはずやと思うので。

○委員

ありますよ。毎月出てますよ。Osaka Free Wi-Fi のものやから。

○事務局

それは我々研究中で商工会議所に勉強させてもらいに行こうかなと思ってるところです。申し訳ないです。

○委員

城周辺とどこまで進んでるの、話は。NTT と大阪観光局まで話は進んでるの。

○事務局

契約先としましてはテレビ岸和田さんとお話しさせていただいていまして、その先には Osaka

Free Wi-Fi の事務局と、実施に向けてこれから契約の段階にはなるんですけども。

○事務局

12月補正の予算がついたところですので3月当初にまずは整備すると今は進めている段階なので、その先の、今話題になっているWi-Fiのデータを活かしてどのように観光施策に進めていくんかっていうところまでは申し訳ないけど具体になっていない。

○委員

とりあえず装置作らないとどうにもならない。お城の方では技術的にはつながるのか。

○事務局

前回までの議論でなかなか進んでいなかった要因としましては、無電柱化ということで地中配管の問題でなかなか線を引っ張ってくるのが厳しかった状況なんですけれども、今回お話しさせてもらっている中では一番近いところから拠点間を無線で飛ばす、その飛んできた電波を再度利用者に向けて飛ばしていくという別のやり方を調整とらせてもらってまして、無電柱化のところの課題はクリアできてございます。

○事務局

駐車場の方から飛ばしてきてお城で受けて二の丸公園とお城の八陣の庭に飛ばす。

○委員

補助金は使えるのかな。

○事務局

はい。お城とだんじり会館1階無料の部分、無料部分じゃないと補助金の対象にならないので。あと自然資料館。この三か所になります。行動計画自体は4月以降の文書になるので、確定になってしまってるんですけど3月当初の整備に向けて進めているという状況です。

○委員長

他ご質問等ございませんでしょうか。色々ご意見もあると思いますけれども、さっきも申しましたけれども議題2になりますけれども事業推進組織についてご説明頂いて、それを踏まえたうえでもう一度また第2期行動計画について議論ございましたら平行してやっていく変則的な形になっていきますがそれでお認めください。

○事務局

ここからは私の方からご説明をさせていただきますので宜しくお願い致します。資料の方は右肩の方にJTB案という風に記載をさせていただいておりますA4横の資料一枚になります。こちらの方でご提案したいのが、第2期の行動計画に向けて、その推進の体制についてということでございます。

このご提案をさせていただく背景というのが先ほどからもご議論ありましたとおり、行動計画の濃淡というものがあるにせよ実際にやっていくべきことはかなり多岐にわたることになったときに、やはり担い手が圧倒的に足りないというところが一つの背景として私共は考えております。あるいはその担い手のネットワークというところもあろうかと思っております。

そして主旨、目的のところの2番のところにもありますように、やはりスピードを上げてやっていかないといけないというところを考えた時には、この二つというのが密接に関連するのではないかという風に考えておりまして今回のご提案になります。

具体的なご提案のイメージとしてはその下の方に記載させていただいております。まず一番大きなテーマとしてはこの委員会が各種活動あるいはその結果評価に関するオーソライズをしていただく公認組織であるというところに、一定の性格といいますか主旨を担っていただくということを前提にその下に、先ほど申し上げております担い手を民間の方・市民の方を中心に集めまして、実際にこの行動計画等のアクションを起こしていただくというような体制に移管をしてはどうかという風に考えております。

私も仕事柄色んな地域の方と関わりをしている中でやはり市民さんの熱量っていうのは特に大阪においてはインバウンドがたくさん来られているっていうところもあって、ビジネスチャンスとしてとらえている方とかですね、例えば農家さんで普段は農協さんに物を取めているけれども、一部の農作物は例えばフルーツピッキングという形で外国人に提供してもいいかなというようなイメージを持っておられる方とかですね。こういう方も結構掘り起こしていけば「ある」という風に考えておまして、こういったところでプレイヤーズ会議ということで各行動計画に沿うのが前提ですけども行動を行っていただいて委員会の方で評価いただいて、そしてそれがうまく進んでいないということであればそのプレイヤーから降りていただくということですね。この辺りもかなり厳しい表現にはなりますけれどもこういったところでPDCAを回していくというようなことで回していただければどうかという風に考えておまして、このご提案をさせていただきたいと思っております。ご議論の方、よろしくお願い申し上げます。

○委員長

もうちょっと我々が関係するところをご説明いただければ。

○事務局

失礼いたしました。もう少し具体的に申し上げますと、この表の下の方に部会を三つ記載させていただきました。おそらく観光振興を考えるうえでコンテンツであるとかプロモーション、そして受け入れ環境、インフラの整備というこの三つが大きく分けるとテーマになるのではないかとこのように考えております。先ほどの行動計画の2期にですね、各項目の三つのどれかに分類されるのではないかとこのように考えておまして、まずコンテンツ部会に関しましては例えばのテーマ例でいきますと岸和田城を活用したこと、あるいは駅前の商店街を活用したもの、あるいは先ほど申し上げましたもう少し山手の方のフルーツピッキング、例えば包近の桃とかですね、あるいは水なすとかこういったところを活用して2期の賑わいづくりというものをイメージしております。

次のプロモーションというのはそれに関連しますけれども単に来ていただいてそのまま帰っていただくことではなくて、ある程度付加価値をつけて具体的に消費をしていただく。それが旅行商品であるとかお買い物であるとか色んなパターンがあろうかと思うんですけども、ここが次のプロモーション部会の主なミッション、そしてそれを旅行会社であるとかあるいはオンライントラベルエージェントと呼ばれているところですね、こういったところに実際に販売の活動に結び付けていくということですね。この辺りをイメージしております。

最後の受け入れ態勢に関しましては先ほどご議論のありましたWi-Fiであるとかですね、あるいは案内のマナーであるとか、あるいはWebでの情報発信のあり方ですね、こういったところも活かすべきところ、改善していくべきところをそれぞれ民間あるいは市民の方の力を借りながら

ラッシュアップをしていくというような方向性を考えております。以上になります。

○委員長

初めてのご提案ですので、いくつか組織仮称ですけれども組織がありますのでそれぞれまた赤い字で役割をまとめていただいておりますが、ほんとのところどうなんやみたいなそういう議論があると思います。まず、ご質問等ございましたら。

○委員

JTB さんのご提案ですので色んな市町村手掛けておられると思うんですけれども、このスタイルをとっている市町村は他にどこがございますか。府内じゃなくてもこの関西というエリアで。

○事務局

関西では福知山あたりがこれに近い体制ですね。大阪府下ではすぐお隣になりますけれども南河内エリアつまり富田林・羽曳野・河内長野・奥河内も一部入りますけれども、こういったところがございます。

○委員

それは非常に順調にうまくいっているという事例なのですか。

○事務局

今申し上げたのは順調な方です。順調でないところはこういった似た組織が並列で色々出来上がってしまって結果的にエリアマネジメントに到達してないというところも。ここでは申し上げませんが、だいたい二つに分かれるんじゃないかなと思っております。

○委員

組織図なんですけれどもこの青のところのかかっているプレイヤーズ会議ですね、ここの組織は市民が公募かなんかで集まってきて組織する団体になるんですかね。

○事務局

集める手法論は公募ももちろんあってもいいと思いますし、委員会からの推薦であるとか自薦他薦あると思いますが、基本的にこの青地の部分はおっしゃるように実際に活動される方が集まって情報化あるいはネットワーク化をしていくという主旨になると思います。

○委員

そこのメンバーの人らが全部部会にばらけるんですかね。それとも全く部会のメンバーとプレイヤーズ会議の構成員は別の人になりますかね。例えばこのプレイヤーズ会議に 30 人いて 10 人 10 人 10 人は部会に降りるというスタイルなのか。

○事務局

もちろんそれも議論していけばいいと思うんですが、まずこの委員会で優先順位、大きいテーマを策定する。それに合わせてイメージとしては公募といいますか特定の一つの方法ですけれども、予算つけて 1 年間ないし 3 年間の計画を書いてくれるような組織に集まっていただくという。プレイヤーズ会議はその代表者であったりキーマンが一人ずつ入ると、あとはこちらの事務局とうまく調節して全体的な連携をとっていかうと。イメージとしてはそう考えています。

○委員

既存組織との関係はどうなんですか。例えば農のところだったら農協さんあるし漁業だったら漁業組合あるし、観光協会もあるし、それぞれ既存の部分があるわけで、それをどういう具合にし

ていくの。

○事務局

基本は手を挙げていただけると一番ありがたいです。要は、民間といますか別のセクターでいいと思うんです。企業さんでもいいと思う。そういう方に幅広く手を挙げていただいて実施してもらおうということです。

○委員

そしたら組織効率悪い。既存の組織をどうやってうまく使うかの方が一番簡単と違うの。プレイヤーはよくわかるけどその専門があるんやから、その専門の連中にピックアップしてこういうのやって頂戴、一回研究して頂戴ってやる方が簡単やろ。

○委員

だから結局は色んな既存団体があるんですけど、この団体さんに宛て職で誰か来ていただくというスタイルを取るのか、そんなん全然なしで興味ある団体は一人でも二人でも三人でも手上げたら入って来てくれるというどっちを取るかによって性格がだいぶ違ってくると思うんですよね。岸和田に合うのはどっちなのかなと。それが先ほど言われた他の市町村の成功事例であがっている市町村と岸和田を比較した時に、岸和田の方の性格とか気性とかそういうのと合うのか合わないのかだと思います。箱としては立派かもしれないけど合わなかったら動かないのでそのところは気になります。

○委員

運営費云々書いてあるけど結局箱物作りになってしまうわけや。それやったら既存の者らに意見聞きながらどうやって動かすか。その既存の組織はそれぞれでお金持ってるんやから。ある程度どっか集中していったらええんやし。だから官で作るという発想はやめといたらい。民で本当にやろうとしたら民の団体集めてこっちの方向性でお願いしますということを組織立ってやればいい。そういう意味で JTB さんのベースはわかる。ベースはわかるし方向性はわかるけども金の出し方はそうしないと出てこない。岸和田市の金使うと思ったらあかん。だからそれぞれの団体がそれぞれ儲かるようなことを考えさせてそれを整合性ある方向に持って行って、それでやればいい。我々はオーソライズなんぼでもしますよ。あの人ら、その人らが儲かるような提言やるのが一番実は効率的なんです。官の金使うことを考えたらあかんよ。JTB さんも組織化することあるいは事業化することによって前へ進むと思う。全体的に反対はしない。やり方としてあるやろうと思うけど中身は箱物づくりやったらあかん。実行せなあかんものをやってほしい。

○委員

アクターズネットワークデザインをどうするかっていうのはどこの市町村でも議論をされているので JTB さんが関わっているところの市町村も多いと思うんですけど、岸和田市さんって祭の文化で、新興住宅地ばかりのところと比べたらある程度つながりがある地域やと思うんですね。その地域だっていう特性を見てネットワークデザインを考えないとこれはもうどちらかって言ったら、そうじゃないところはこれで行政はぐっと先に枠を作ってあげて、しかもプレイヤーズ会議の事務局が行政ですよ。なのでこのところこの事務局が自由な議論をさせることができるのかどうかっていうのはあると思います。だから当然上に推進委員会があるんで、推進委員会の事務局が観光課っていうのはわかるんですけどこのプレイヤーズ会議の事務局は間接的に違

うところが、例えば JTB さんがされるとかしないと、やっぱり行政は先ほどの行政の論理があるのでどうしても外枠を決めちゃいますよね。決めてしまふとなかなかプレイヤーは自由に動けないんじゃないかなとは思いますが。一般的に他の市町村の事例を見ていて失敗されているところはそうなので、岸和田市さんはちょっとこれに似ているのかなという、素朴な疑問です。

○委員

おっしゃるとおり割と住民同士が固まっていますから、住民同士のパワーを使おうという発想はうまく使う。そうやけども岸和田市の金は使うな。こんなもんに使ったらあかん。

○委員長

他の方どうですか、ご意見ございましたら。

○委員長

今のご意見聞いてると、我々のやっている推進委員会とこの仮称であがってるプレイヤーズ会議の関係ですよね。ここがやっぱり大きいし、それとこんなことないと思いますけどもプレイヤーズ会議が独り歩きしだして、市からある意味、市は市のやり方っていうかコントロールしたいところが当然あるし、せなあかんのでそれが歯止めきかんようになったら具合悪いわけですよね。特に我々の立場からいうと。いやもうそれでええんやというんやったらそれも一つの答えですけども、そこですよ。そのためにプレイヤーズ会議のメンバーというか、ご意見ございましたけれどもそこがどうなるのかどういう組織、事務局も含めてですね。下のところがこれはこのやり方で行くんやったら手を挙げてもらって皆さん多くの方が理解できるところやと思うんですけども。そのあたりどうでしょう、他の委員の方も意見も頂いて。

○事務局

先ほどおっしゃられたように、既存の組織当然のことで組織間でこれで行くと非常に問題が起ってくるところがあるのかなと考えています。メンバーはわかりませんがプレイヤーズ会議という形でありますけれどもここに書いているのは。本来色んなアクションするについて、色んな得意分野をもった方々がどのように連携していけるんやという議論をどこかでしてもらってというのは大事なことなのかなと思っています。そのうえで部会にアクションかけるのか、言ってもらったように漁組さんであるとか JA さんであるとか得意分野のところにアクションかけていくかというのはあるんですけども。観光ということは観光産業も市長もずっと言ってますけれども、観光産業として根付かせていくということになると自らもしっかり儲けるという観点も持って連携をしていただいたうえでおっしゃっていただいたように公的なお金を当てにする事ではなくきちっとした流れの中でどのように連携したアクションをかけるかということを議論する場という形での位置づけであればまだその下に部会があったとしても別途 JA さんであったり漁組さんであったりというアクションをかけれるという状態であれば、一定整理できるのかなという風に思いました。

○委員長

どうでしょう、ご意見ございますか、JTB さん今の我々のお話聞いて、どうでしょう。

○事務局

先ほどからの議論にありますように既存組織を差し置いてというイメージも持っておりませんし、逆に言うとテーマ別に市内にいらっしゃる異能の人、埋もれてる方なんかを掘り起こす場とし

て活用できれば色々な展開があり得るんじゃないかというのが、私の個人的に思う発想でして、その中で公金を使うかどうかというのはご議論ありました通りなかなか難しだろうという部分、あるいはこういうことやりたいけれど何かこう足りないというところでスタートアップ支援するとか、そういったところも幅広い議論あるいはそういった自治体エリアというのものもあるにはありますのでこの段階で何が正解かというのは分かりづらいところではあるものの、思いとしてはその異能の人を掘り起こして行って、全く新しいものを産んでいくみたいなどころの場が今このエリアには少ないのかなという印象を持っていましたので、そういったご提案をさせていただいたというところです。

○委員

例えば能力がある人が埋まっているというのはわかる、その人らに新しい発想というのは。その新しい発想を買う企業を募集する。そういうアイデア買いますよと。自分ら事業化しますよと。岸和田市のオーソライズされた形でやる。それは民の金で。そういう形でやるんやったら別に問題ない。だから市としてはオーソライズというのは、これはこういう方向性である程度援助はしていきますよ。お金じゃなしにね。援助はしていきますよという、そういうやり方やったら別に問題ない。既存の例えば JA でもそうやけども、それについてやはり対セールス、一つだけ人参の彩誉あるでしょ。なんで農協は前へ進めへんかおわかりですか。農協の理事長曰く、人参で実はこの辺の農家を支えられない。だから前へ進めない。そういう現場のホンマの話聞いたらなあかん。自分らの概念だけでやったらあかん。そんなもんで観光はでけへん。

漁協の連中でも必死になって自分らのところ守ろうとしてるわけ。その必死になって守ろうとしてるやつを行政がある一定の方向性をもってやったるのが行政の仕事や。そのために金を使うことじゃない。漁協の連中なんて自分らで港なんか作ったやん。それを逆に言うたらつぶさんように行政がやらな。

発想はええよ。埋もれてる才能もあるし、たくさん。それをどうやって出すか、それは大事なこと。せやけども専門専門の連中の話ももっと聞いてやらなあかん。それによってはじめて前に進む。さっきの民泊でもそうや。もうすでに時期は終わってるのにまだ民泊の話してたやろ。そんなことしてたらあかに決まってる。せやけど今言った例えばベッド数のどうのとか平均あれが落ちてるってどう思ってるの。業界やから知ってるのと違う。単純に新聞読んだら出てくるやん。

○委員

今おっしゃったことを、JTBさんはプロパーですから、当然わかってこれをお出しになってるのか、今の話は初めて聞いたって話なのか、はっきり聞かしていただきたいんですけども。彩誉のことについても。

○事務局

彩誉はすみません、聞いてませんでした。

○委員

検証する材料が情報としてなさすぎるのでやっぱりこれもちょっとおかしいし、これおかしいのでやっぱりここの箱の考え方もちょっと岸和田っぽくないと思います。

○委員長

確認ですけど、この組織についてはここで今日決めるという話やないんで、だから色々ご意見い

ただいた方が逆にいいんですけども。行動計画については一応これでいいかというところを認めていただくというところですよ、今日は。

○事務局

今日議論頂いた中で第三回に向けて修正はしながら確認もさせていただきながら第三回では確定したい。

○委員長

今日は特にどちらも確定しないということですね。

○事務局

第二期行動計画につきましては具体なご意見とか頂けたら修正に掛かれるかなと思います。

○委員長

別の話なんですけど、今のご意見聞いてると当然なんですけれども、一つは岸和田市の産業たくさんありますけれども、その振興っていう部分とそれと我々がやっているそれにももちろん関わるんですけども観光というところですよ。観光計画推進委員会ですからね。だから切り離しては当然話ができないですけども、そのところきちっと踏まえたうえで議論していかないと、考えていかないとってなりますよね。例えばご意見いただきましたけれども、その産業の団体をベースにするという、それは一つの大きなやり方やと思うんですけども、産業の団体が行動起こしたらやっぱりまず自分の産業全体のパフォーマンスというか成果を上げるためにがんばる、それ当然です。それと観光とうまく結びついていけるかっていう、そこを踏まえていかないとぐちゃぐちゃになってしまうかなって。市役所の観光課の横にある産業と同じような議論を両方でやってるようなことになってしまったら具合悪いというところはあると思います。だから箱を考える場合プレイヤーズ会議というのがキーになるとこれを見る限り思うんですけども、メンバーを考えるにしても組織とか事務局とかを考えるにしても、僕がちょっと言ったようなところですよ。大きく産業、それとそれの中で観光どっちが大きいかわかりませんがね。観光は各産業と結びつきがなかったら支えられなかったらできないだろうと思ってますし、だから産業に例えばお願いすると、それでずっといってしまう、頑張ってくださいそれはそれでいいことなんですけど、それで我々観光のところを狙ってるるところと違う方向に話がいったときに誰がそれをコントロールするか、それは多分この場やと思うんですけどね。その前の段階でこのプレイヤーズ会議がそこをうまくある程度コーディネートできるかどうか、その部分にかかってくるように思うんですけど。

○委員

2点お願いしときたい。1点は第二期行動計画とここの間のところにやっぱり検証、どういう検証をしたのかっていうのを文字でやっぱり書いていただきたいです。例えば先ほどの南海さんのご質問も南海さんがやっぱりつかんでおられないというのはおかしな話ですし、例えば2ページが一番下もそうですけど、農作物の収穫体験とか街歩きの内容を充実させるっていうのが、これが次はサイクルツーリズムとか武道ツーリズムになってるわけですね。ということはこういう収穫体験とか街歩きっていうのは岸和田では流行らなかった、うまくいかなかった、もしくはニーズがないからこういうものに変えたいという意味なのか、プラスアルファでサイクルツーリズムとか武道ツーリズムを追加するという意味なのかわからないんです。なので、まず行動計

画はあくまで計画なのでこれが先ほどの Wi-Fi じゃないですけど、実行したのか進行中なのか着手できてないのかっていうその状態と、実際に着手できていない、進行中、実行やったら実行でその評価っていうのがあると思うんですね。それがあって次行動計画が初めて書けると思いますが、一個一個見ていかないといけないんじゃないかなというのが一点、ぜひお願いしたいと思います。それがないとテーマの集中と選択が絶対にできないと思いますのでお願いしたいと思います。

もう一個は委員長もおっしゃったように、プレイヤーズ会議っていうのがよくわかりません。色んな市民が集まってきて、もしくはその部会のヘッドが集まってきて、そこで議論するんですけど、そういう人たちっていうのはコーディネート支援ができる人たちなんですかね。むしろコーディネートされないといけない人たちじゃないかなと思うんですよ、プレイヤーズ会議というのは。あくまでプレイヤーがあって、プレイヤーをコーディネートするのがプレイヤー兼コーディネーターなのかそれともプレイヤーとコーディネーターは別なのかっていうのが図の上ではわかりにくく、ただ、プレイヤーズ会議の調整機能の中にコーディネート支援って書いてますので、ある程度住民の方・市民の方でもまちづくりとかネットワークに長けた人が集まってくればパパパッとさばきはると思いますけど、熱意はあるんだけど「とにかくやりたいんや」という気持ちの人ばかり集まるんだけど調整役誰がいますか、いませんっという風になったときに事務局が調整しますとなると先ほど言った通りなにかしら自由な発想というのがね出てこないのかなあと、ちょっと懸念はありますよね。

その二点だけ次回はっきりしといていただきたいなと思います。

○事務局

貴重なご意見ありがとうございます。

確かに色んなご質問されてお答えできないという、事務局の勉強不足というのもありまして申し訳ございません。ただ、会議としましては委員長おっしゃっていただきました通り前回検証したということの上に本日というイメージでしたので資料としては改めて検証という部分については外させていただいたっていうのが実情の会議となっています。「彩誉」につきましても徳島でも彩誉とは名前出してませんが、徳島人参はほぼ彩誉で、徳島人参甘いといわれながらも専業農家さんが多くて、生計が成り立たないということでやめていかれる方も多々いるということも聞いてございます。

あとホテルの関係につきましてもビジネスホテルについてはかなり増えてきてる中でニーズギャップとビジネスホテルの部屋がかなり空いてると昨今目にするところでもあります。

民泊につきましては、山直中で岸和田で1件開業したということでHPにもあがってましたけども、一定時期が過ぎたというのがありますし、自分の隣の家に見たこともない人が毎日変わってというのは地域的にも受け入れづらいところもあってなかなか浸透しなかったのかなというのがあります。総合的な政策の中で観光インバウンドという形になると、地域で外国人の方がこられるという理解もいることですし、産業として成り立つかについても色んな方のご協力っていうことは必要であると思います。

そういう意味ではプレイヤーズ会議の中では一定、方向性という色んな議論はしてもらって、どういふメンバーでっていうのはあるんですけど、こういうことをすることによって地域の方にも理

解してもらえると、方向性というか役割をイメージしながらできるような組織に、検討していければいいかなという風に思いました。

○副委員長

最近、中場利一さん原作の映画で岸和田のところがよく出てたと思うんですが、途中から岸和田でほとんど撮られてないように見えるんですね。ですからぜひフィルムコミッションを成功したらいいかなというように思うところがあります。もう一つなんですが、2 ページ目のところに武道ツーリズムについて商品化を検討していくところがあったんですが、商品化っていうのは行政が何か商品を開発して承諾するという意味でよろしいですか。

○事務局

インバウンドの取り組みを色々実験といいますかしてございまして、台湾の方でありますとか色んな方がこられた時にお城があるということで剣道の体験であったりしたいということで、今は岸和田の心技館でされている方をお願いしてるんですけども、大阪城等々ではきちんと費用を取って展開してるということでもありますので、体験型としては一番は心技館を活用していけるのかなと思っています。

○副委員長

商品化っていうのは基本的に市の収納を上げるということ？

○事務局

具体には何か商品を作ってその消費を市に入れるというよりは、今まで割と行政は「こんなきれいなところありますよ」「こんなおもしろいところありますよ」とお知らせするばかりで、ルートになってないところがありますので、やり方は市で案内するものもあったり旅行会社さんとお話をしながら進めていくというやり方も色々あるんですけども、来ていただく方にわかりやすいパッケージを作っていきたいという意味合いです。

○副委員長

わかりました。最後に一つなんですが、今回、中国で病気が流行ってますけど何か影響とかありますか。対策とか何かされてますか。

○事務局

今年度予算がつきましてインバウンド事業ということで岸和田城で楽しんでいただける取り組みを作って、そこに 1500 人の外国人観光客さんを連れてきていただいて、また SNS で発信して少しでも岸和田城を海外に情報発信しようという事業をしているんですけど、中国からの団体さんがほとんどやったのでいったん止まっているところで今業者さんと話をして、どういう対策をしていくか考えているところ。これが今一番大きな対応です。

○副委員長

次の時に、実際の売り上げを見せていただくことは可能ですか。

○事務局

すみません、売り上げといいますと。

○副委員長

観光客が来てお金落とすと。それには売り上げのある程度予測があると思うんですけどそれはいいですか。

○事務局

基本的には岸和田城の入場料とかであるのは直接入場者の方と一緒に市の歳入に入ってしまうので、何人来られたかという人数は出せるんですが。

○副委員長

どのぐらいを目標としたのかと、どのぐらい実際に来たのかと教えてもらいたい。

○事務局

基本的には今年度については、まずたくさんの人に来てもらって SNS 等で発信してもらおうということで、実際団体さんで来られバスで降りて岸和田城・だんじり会館に行って、そのまままた関空に行かれるというのが多い中でどれほど市内でお金を落としてっていうのは非常にわかりにくく混ざった状態。

○事務局

来られた方が商店街で買い物したかというとはほとんどないです。基本的には岸和田城に来て、お金のなところでは岸和田城の入場料しかないかなというような状況で、この事業の目的は 1500 人の方に来ていただいて、例えば「210 円の入場料×大人の方向何人」これが目標ではないので、いかに SNS で発信していただいたかっていうところです。

○副委員長

私が聞いたかったのは今回の新型の肺炎の影響です。

○事務局

それでどのくらいマイナスになったかという。

○副委員長

予想よりもどのくらい下になったのか、それとも上になったのか、そういうものがあれば。

○事務局

検討はしてみます。例えば去年の 2 月のとかいうところですよ、比較できるように考えていきます。

○委員

関空もガラガラやし。

○委員長

まだご発言されてない方どうでしょうか。もし何か感想でもございましたら。

○委員

フィルムコミッションっていう項目が今回出てきたんですけど、テレビとか映画とかのロケ地を誘致してくるっていうことですよ。そういう部署ができて「どんどん来てください」っていう風に発信されると。

○事務局

具体的には何か役所の中で部署ができるのではなくて、観光課もそうなんですけど、観光振興協会が大阪のフィルムコミッションっていうロケ地を探すとかの会員になっていて、関西フィルムミーティングっていうロケ地で使ってくださいという自治体であったり民間であったりするところと映画会社の関係の方が見に来て PR するという場もありますのでそういうところにブース出したりとかそんなところとか。

あとは、カーネーションの関係でNHKの方とも話があるんで、この前もNHKの逆転人生というドキュメンタリーみたいなのがあるんですけど、北中で撮らせてもらって少しでも映像で、映像には岸和田の場所が映ってPRできていくというひとつのPR手段かなと考えて進めていってる状態です。

○委員

先ほども議論してましたけれども行動計画の中のプレイヤーズ会議、これはおそらく実戦部隊になると思うんです。その作り方、私も色んなところの色んな会議に長年出たんですけども、だんじり関係者があまりにもウエイトが大きすぎて、結局勝手モンの集まりですね岸和田の会議は。いっばなしの聞きっぱなしやからね、前へ進みません。その辺のところをもうちょっと皆さん方で勝手モンをいかに上手に使うか。これはもうどんな会議行っても一緒やと思うんですけどね。

特にもう祭、岸和田、恐らくこれ以上伸びないと思います。だんだん腐れてくと思うんです。というのはやっぱああの団体は自分らの都合のええことしか考えてない見に来る人見に来てもらえるっていうそういう感覚がないんで自分達楽しんだらいいんやっていうことだけでしか考えてないんで。おそらく観覧席作ってもこれ以上伸びないと思いますしね。

こないだ部長や課長も一緒に行って頂いたけども、徳島の例なんか色んなところで学ぶところもあったし特に尼崎のお城見せてもらったら岸和田とは全然違いますけれども商用的な感覚で市民を集めてる。だから最新のお城ですんで、個人的にお金出して作ってくれたお城やから使い勝手はいいと思うんですけどもその辺のところも今後岸和田ももっと勉強して、我々もそうですけども観光に携わってる人間として学ばなあかんというのは実感してきました。特にこのプレイヤーズ会議で色んなことをしていただくんでしたら、さっきも言いましたけども言葉悪いですが「勝手モンをいかに上手に使うか」ということで色んな会議で組み立ててもらったらうまくいくんじゃないかなと、その辺の色んなことは商工会議所の会頭なんかは上手ですんでね。前へ出ていただいでやって頂いたらと思います。

○委員長

確かに率直なご意見の通りほんとに好きなこと言ってる人が集まってるっていうそういうイメージが私もいくつか委員会出させてもらってるので何年も前から感じているところなんですけども、それだけに繰り返して申し訳ないんですけどプレイヤーズ会議のメンバーですね、メンバーの役割と、我々の立場から言うところのこの会議との関係をはっきりしといてもらわないとお互いやりにくいですよ。プレイヤーズ会議が非常に実働的になって力を持ってきたら推進委員会もいらんやないかと、我々そういう議論も出てきかねませんので。せつかく我々こうして集まってくるんですから、我々を守るんじゃなくて我々の立場とプレイヤーズ会議の立場と、役割をきちんと取りまとめてもらえたらなとそういうことなんですけれども。そのために例えばこの委員会の中でメンバーでプレイヤーズ会議の方へ行って最大限のリーダーシップを発揮していただくとか、そういうこの委員会の関係ですからそのあたりはよく考えていただきたいなと思います。

○委員長

他にご意見どうぞございましたら。

さっきもありましたように今日は何かを決めるというんじゃなくて次に向けて色々意見を聞いて

ってということですので、むしろ色々言っていた方がありがたいなと。だいぶ出ましたけれども、いかがでしょうか。

○事務局

先程、身近なターミナル拠点におけるプロモーションということで南海さん実績ありますかということで、直近というのはそういう形であったかもしれませんが、年末頃から南海さんから積極的に市に接触いただいてまして沿線開発ということで南海さんにできること、また誘客については協力させて欲しいということで色んな事業展開で協議しましょうというお話をいただいています。JRさんもかなり積極的に動いていただいてましてJR 東岸和田駅もああいう形になったということで試験的になりましたけれども去年の10月祭礼のときに特別列車を出していただいたこととか、ポスターについてもJRさんも大阪・関西・岸和田最寄り駅、文化会館で塩田千春さん展、現代アートするんですけどもそのポスターなんかでも非常に協力的で貼っていただいたりとか、そういう関係の中で市の観光だけに関わらず色んなお知らせするようになっていただきたいというようなものも積極的に発信をして皆様に来ていただく、またそういう関係を南海さんとJRさんとなげしていきたいと思います。

○委員長

JTBさん特に何か逆に我々に聞きたいこととかございませんか。今後また考えていただければ。

○事務局

私も関西を中心に地域での組織づくりということはかなり場数をこなしていく中でおっしゃられるファシリテートの大事さとかですね。あるいは特定の思いを持ち過ぎていて、結局その会議体がぐちゃぐちゃになっちゃうとかいうケースがよく見受けます。それを今回この岸和田でやってしまうということはやはり避けたいと思う中で今回ほんとに試案たたきでお持ちしましたので、そのリスクをどこまで許容できるのか、あるいはそこは絶対ダメなのかとかそういうところはもう少し細かく見ていく必要があるなどというのは、皆さんのご意見をいただいて改めて感じたところです。それとご指摘があったように結局市民の方あるいは事業者の方が儲かるということですね。ある意味インバウンドの肝になってくるところが間違いないかなと思いますので、このあたりの観点をしっかり計画の中では反映していくというところは今回のご意見をいただいた中では改めて肝に銘じた次第ですので、次回以降になりますけれども引き続きよろしく願いいたします。

○委員長

癖の強い人が集まって好きなこと言ってる委員会みたいな結構ありますけれども、それは長所・短所であって、それが岸和田市の特徴かなという風に僕はずっととらえてるんですけど。他の市が全く毛色の違うところに顔出したりしてますけれどもこれはこれで一つのやり方ですが、今まで通り我々はフリーに意見を言うってそういうスタンスで行きたいと思います。

○委員

今JTBさんからもお話聞いて思ったんですけども、逆に観光客っていう風に言ってるんですけど外を見がちなんですけど、例えば我々のこの会議もそうですし事務局さんがずっと計画に基づいてやってることっていうのは、岸和田市民の方はどうやって知ってますかね。ホームページとか広報に新しい取り組みやってますっていうのは。なぜかって言うと私もいくつかの市町村の

コンサルをしているんですけれど、その時にこんな新しい取り組みでこんな結果出てるっていうのをいかに住民の方にどう知らしめるかっていうのに非常に苦労していて、それをうまくしないことにはこういう会議体をしたときにスッと人が集まってこないんですね。やっぱりセンスのいい人とか感のいい人とかやる気のある人をある箱のところに集めようと思ったときに、市としてはこんな取り組みをやっとるんだというかなり集中豪雨のように広報してそれを読んでアッと思う人が集まってくる仕組みを作るっていうんですけど、なかなかその情報がどれほど住民の方が持っているかなってところが私ちょっとわからないんで。そここのところの仕掛けをうまくしないことにはなかなかこの箱にいい人が来ないのかなと。ここに来なかったら、今言ってたように実行部隊としてうまく機能しないので、何か住民の方に現状なりこういう計画でこういう夢を描いているんだっていうようなことをお伝えできる仕組みっていうのをこの組織の中で考えていかなきゃあかんのか、それとも別に岸和田市さんはそういうことはもう十分できているので「この指とまれ」って言ったらパッと集まってくるような状態になってるんかどうか確認していただいて、必要ならば「この指とまれ」がスッとできるような土壌づくりもしておかないとあかんのかなと思いますけど。

○事務局

確におっしゃる通り役所の情報って申しますのは、例えば公民館行っていただいたらわかるかと思えますけどチラシが山のようにあって色んなことを行事としては結構してるといながら実際それに触れる人がどれだけいてるか、情報が溢れすぎて中々うまく伝わってないものもあるかと。ですからそらの情報をどういう風に伝えていくか、実際には地域で活躍されている方とか核になるような人に動いていただいて身近なところから広げていただくのが早いかもしれませんけど、ちょっとその辺は行政としてもほんとに大事な、情報も含めて市民まですべてに情報を浸透させるっていうのは非常に色々課題をかけながら進めてますけれども。

○委員

説明会とかちょっと大きい規模のシンポジウムとかそういうのは話しはないですかね

○事務局

なかなか今人集まらないんですよ。その集める広報すら見てないんです。

○事務局

全体のこう言う計画があってこういう行動計画があってそれに基づいて市なり協会はやってるんですよっていう、その大枠自体をお知らせすることは中々少ないなとは思いますが、おっしゃるとおりかなと思いました。

○委員長

ヒアリングみたいな開いたら連合町会から各町会の役に声かかってきて出ていけって言われて日頃会ってる顔ぶればかりやってそういうの多いです。

○委員

市民にこの会議がこういう委員会が開かれてるよっていうことも恐らく知らないと思います。やってることは確かにホームページに載ってますけど、何が議論されてるんやって言ったときにね、別の会議で逐一誰が何をこの問題について言いましたって、ずらっと並べたホームページ見たことあるんです。了解もいりますけどこの会議を公開してますけど、もっとホームページで誰が何

言うたっていう、誰っていうのはちょっと難しいかも分かりませんが、そんなのも一つ考えられたらどうかなって思います。

○事務局

議事録の公開はさせていただいています。役所的な流れですけど広報ホームページでこの会議があることを、傍聴来ていただけてますけれども傍聴来れますというのと、終わってから資料と議事録は掲載はさせていただいて、それをいかに市民の方に見ていただけるかということがあるんです。名前までは出してない。

○委員

前のところはきっちり出していました。断った上ですけど。誰が何を言うたかっていうこの段階を背負って「うかつなこと言えんな」っていうのもあるんですけど。たしかに批判的な意見もありましたし、よう言ってくれたなというプラスの意見もありました。ということは少なくともこの会議について興味を持ってるんだなっていうことがわかりました。

○委員長

事務局に戻さしてもらって今後のスケジュールとかご説明いただいたら。

○事務局

事務局から今後のスケジュールをご説明させていただきます。次回の委員会の開催につきましては3月の下旬ごろを予定させていただいております。次回の委員会におきましては本日委員の皆様から頂きましたご意見を踏まえまして、もう一度第二期の行動計画の案を作り直しお示しさせていただきまして、もう一度意見交換しまして3月には承認いただけるような形にはしつらえていきたいと考えております。また事業の推進組織についても色んなご意見いただきましたので引き続きご審議の方をしていただけたらと考えております。なお開催日時につきましては改めまして委員の皆様にご文書であったりメールであったりそちらの方法でお伝えさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。以上です。

○委員長

最後に何かご質問ございませんか。ありがとうございます。色々ご意見が出てありがとうございます。本日の議事は終了したということにさせていただきます。本当にご協力ありがとうございました。それではこれでこの委員会終了したいと思います。

(5) 閉会

以上